地域コミュニティとの交流を通した研究環境の強化

～黒潮生物研究所の9年間の活動とこれから～

佐藤崇範○・中地シュウ・田中幸記・目崎拓真・岩瀬文人
（財団法人黒潮生物研究財団　黒潮生物研究所）







黒潮生物研究財団について

黒潮が作り出す環境とそこにすむ生物の関わりを明らかにするため、黒潮流域における環境と生物に関する幅広い情報の収集、整理、発信を行うことを目的として、平成12年4月に設立されました。

平成13年10月には、四国の南西端、高知県大月町に臨海研究所「黒潮生物研究所」を開所し、この施設を拠点として様々な活動を続けています。

*「黒潮生物研究財団」および「黒潮生物研究所」は大阪の化成メーカーであるステラケミファ株式会社とその社長で当財団の理事長でもある深田純子氏の寄付により運営されています

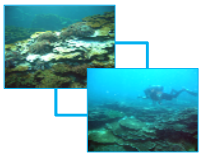
主な活動内容

黒潮生物研究財団では、周辺海域の生態系に関する情報の収集・発信基地として、幅広い調査・研究活動を行なっています。国や県、地方公共団体や他の研究機関からの委託された研究や調査なども行っています。

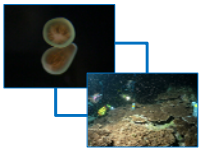
また、研究成果を公表する刊行物の発行、生き物や環境に関する講演会、小中学生を対象とした野外観察会やサマースクールの開催などを通じた教育啓蒙活動にも力を入れています。

さらに、研究助成、外部の研究者の受け入れなども行っており、様々な分野の研究者の方々や大学生、大学院生に利用していただける開かれた研究所を目指しています。

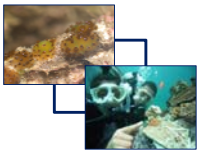
これまでに行ってきた主な調査・研究



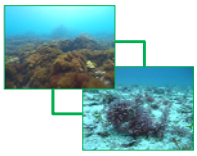
サンゴの分布調査、撹乱状況のモニタリング



サンゴの繁殖生態の把握



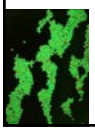
サンゴの受精卵から種苗生産



海藻藻場の分布と変遷の把握



海棲動植物相調査
標本の取りまとめ





地域との交流と研究活動（1）



















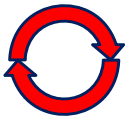
研究所の活動への理解
→スムーズなフィールドワークに必要不可欠！
周辺海域の過去の様子、現在の状況の把握
→研究の手がかり、新しい知見・標本の宝庫！

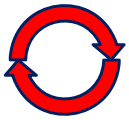
地域との交流と研究活動（2）



・竜串自然再生協議会、竹ヶ島海中公園自然再生協議会への参加
・足摺宇和海保全連絡協議会の設立・運営
・大月町のサンゴ種苗生産への技術指導
・地元メディアへの対応　など







環境保全活動、調査研究活動等への人的協力

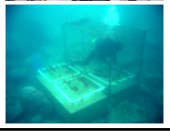
研究成果の応用・新たな展開
研究所の広報・情報発信

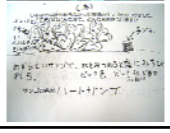
今後の活動～「次の10年」に向けて

○地域の博物館としての機能強化
○地域間ネットワーク作り
四国CBDネットワークへの参加・COP10での展示
四国太平洋岸の海域保全団体交流会（仮）の開催
○国内外の研究者等の受入れ・共同研究の推進
→地元への還元、地域の魅力の再発見！











黒潮生物研究財団の機関誌

和文機関誌「CURRENT」（季刊）



学術誌「Kuroshio Biosphere」（年刊）

